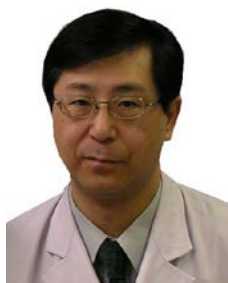


神経内科専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに



このプログラムは、主に県西部地区の研修病院、浜松医科大学の関連病院などで神経内科の専門医を養成するためのものです。既に静岡県全体の神経内科専門医研修プログラムがあり、これはそのプログラムの一部（県西部の施設を抜粋したもの）なので、原則的に静岡県全体プログラムに沿っています。積極的な応募を期待します。

プログラムリーダー 浜松医科大学医学部内科学第一講座 教授 宮嶋 裕明

2 目的

臨床神経学の基本である神経学的診察、神経学的検査に精通すること、また治療計画を立てて実施できることを目指します。

卒後6年で日本神経学会専門医（以下、神経専門医）を取得することを目的にします。ただし、神経専門医試験を受験する条件に内科認定医があります（平成26年医学部卒業まで）。平成27年以降の卒業では、専門医制度が改定されるため、卒後5年以降（初期・後期研修後）に新・内科専門医を取得し、その後神経専門医研修を行って神経専門医試験を受験します。

3 目標

日本神経学会で定められている目標症例を経験できるように、それぞれの病院の特徴を生かして研修します。また、神経生理学、神経放射線学、神経病理学などの研修を幅広く行うとともに、神経疾患全般にわたる症例数を増やして臨床神経学の研鑽を深めるように指導します。具体的な神経内科卒後研修到達目標については日本神経学会のホームページに掲載されています。

(<http://www.neurology-jp.org/senmon-seido/sotsugo.html>)

4 特徴

県西部の神経疾患に関する症例検討会（年2回）、神経疾患に関する研修会・研究会（年15回程度）、県西部の難病検診などに参加できます。

また基礎分野の教室への出向研修ができます。

5 研修カリキュラム

日本神経学会の専門医研修条件に準じます。原則的には、1年を単位に2つ以上の病院での研修を行います。

本神経学会の神経専門医受験の要件は、1) 卒後6年以上の臨床研修を終了していること、2) 日本神経学会の定める教育施設で3年以上、教育施設で2年以上かつ准教育施設を含めて3年以上、教育施設で2年以上かつ准教育施設・教育関連施設を含めて4年以上（准教育施設のみでの4年間を含む）の研修を終了すること、3) 日本神経学会会員歴が3年以上あること、4) 日本内

科学会認定医を取得していることです。ただし、これは平成 26 年卒業者までです。

平成 27 年以降の卒業では、4) が「卒後 5 年以降に新・内科専門医を取得」しに変更になり、そして神経専門医研修を行い、神経専門医試験の受験になります。そうすると要件 1) の年数などが変更になる予定です。詳細についてはお問い合わせください。

6 研修例

浜松医科大学 2 年、聖隷浜松病院 1 年、天竜病院 1 年

7 研修病院群

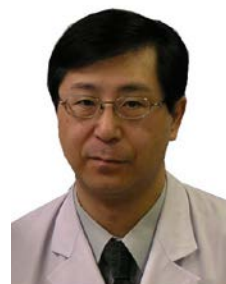
日本神経学会が認定した教育病院 : 浜松医科大学附属病院、聖隷浜松病院、
磐田市立総合病院、

日本神経学会が認定した准教育施設 : JA 静岡厚生連 遠州病院、浜松医療センター
国立病院機構天竜病院、中東遠総合医療センター

(1) 浜松医科大学内科学第一、附属病院神経内科

研修指導医 宮嶋裕明 (日本神経学会専門医、指導医)

河野 智 (日本神経学会専門医、指導医) ほか 4 名の指導医



浜松医科大学の神経内科は内科学第一講座に属しており、附属病院で神経内科の外来・入院診療を行っています。内科疾患に伴う神経症状、神経疾患に強いことが特徴です。勿論、神経難病をはじめとする神経疾患の解明、克服を目指して研究を進めることに力を入れています。また、神経変性症を中心に、代謝性神経疾患・筋疾患、免疫性神経疾患が多いところも特徴です。また、神経内科の生理学・生化学的検査あるいは神経病理学、神経放射線学については浜松医科大学内での各関連科をローテーションすることで習得できます。

病棟の診療は、病棟担当医 (臨床研修医) と病棟主治医に神経内科指導医がマンツーマンで指導に当たり、診療方針は毎週月曜日の午後 3 時からの神経内科カンファレンス、その後の病棟回診で決定します。

一人ひとりの患者を尊重しコミュニケーションが良好にとれること、チーム医療ができることを重視します。また問題に遭遇したときに問題点を抽出し、文献など客観的な裏付けを取り、自分で考えを纏めて診断・治療の方針を立てられる神経内科医になれるように丁寧な指導を行います。

(2) 聖隷浜松病院神経内科

研修指導医 内山剛 (日本神経学会専門医、指導医)

ほか 5 名の指導医



特徴は急性期疾患である脳炎・脳症から神経変性疾患まで神経内科固有の疾患と、脳卒中症例がバランスよく経験できることです。脳卒中は脳卒中科として、神経内科と脳神経外科が共同で診療にあたっています。どの分野においても症例が豊富で、日本神経学会、日本内科学会地方会、日本神経治療学会、日

本脳卒中学会、日本神経感染症学会、日本神経免疫学会、日本神経救急学会等で学会発表を行っています。

当院の特徴の一つに治験管理センターの充実がありますが、当科も治験に積極的に参加しています。アルツハイマー病、パーキンソン病等の治験を行っており、疾患ごとの評価スケールを習熟できるよい機会にもなると思います。

研修は病棟診療が主になります。病棟担当医（上級医）が指導に当たり、診療方針は月曜日～金曜日の夕方からのカンファレンス、その後の回診で決定します。ある程度の経験ののちには、外来診療も行ってもらいます。当直は脳卒中科当直として、指導医とともに当直し、緊急を要する疾患についても十分な研修を積む機会があります。

若い先生(3～4名)が中心に病棟をきりもみし、看護師を含む多職種も優秀で活気づいています。当科は主治医制をとってはいますが、時間外は拘束医が対応しますので、拘束医になるときのために入院患者全員を把握しておく必要があります。そのかわり拘束以外の夜間や休日は病院のことは忘れて休んでもらいます。「働くときには働く、休むときには休む」をモットーにして実践しています。

(3) JA 静岡厚生連遠州病院

研修指導医 高橋良知（日本神経学会専門医、指導医）

伊藤充子（日本神経学会専門医、指導医）



当科は日本神経学会准教育施設の認定を受けており卒後3年目から神経内科専門医育成のためのプログラムに沿って研修し、卒後6年で日本神経学会専門医試験の受験を目指します。市中病院という性質上、入院患者の半数は脳血管障害の診療が中心となりますが大都市圏と異なり神経変性疾患、神経免疫疾患のバージケースなども経験できる点が強みと考えています。また、当院は日本内科学会、日本消化器病学会、日本循環器学会、日本呼吸器学会、日本血液学会、日本脳卒中学会研修施設指定も受けており、神経内科専門医取得の前提となる内科認定医の取得にも各科相互の連携をとっています。

(4) 独立行政法人国立病院機構天竜病院神経内科

研修指導医 石川邦子（日本神経学会専門医、指導医）

鎌田 皇（日本神経学会専門医、指導医）

西山治子（日本神経学会専門医、指導医）

当院の神経内科は、慢性期難病医療の県西部中心機関として「政策医療」を行うと同時に、浜松市北部の地域医療を行う、という二面性をもっています。

政策医療の面では、慢性期神経難病患者と、稀少疾患の長い経過を縦断的に診療する中で、地域の医療機関との連携、終末期緩和医療の現実や倫理的問題等への理解が深まり、地域医療の面では、一次救急対応や慢性期の全身管理など、一内科医として全人的に診療にあたることが求められます。この医療の二面性によって、医療人としてのより深い研修が可能になる環境であるといえます。

なお、当院は限られた診療科ですが、希望があれば、他院と連携で研修を行うよう調整が可能です。

(5) 浜松医療センター神経内科

研修指導医 坂本政信（日本神経学会専門医、指導医）

当院は地域の中核的病院です。神経内科全体に幅広く診療していますが、特に脳血管障害やパーキンソン病、アルツハイマー病などの大脳変性症を主に扱っています。他科、特に脳神経外科との連携は良好で、幅広い研修ができると思います。

(6) 磐田市立総合病院神経内科

研修指導医 藤本正也（日本神経学会専門医、指導医）

当院は、天竜川東岸にあり浜松東部から中東遠地域の中核的病院です。神経内科疾患全般を扱っており、急性期医療から慢性期医療まで幅広く診療しています。他科との連携は良好で、幅広い研修ができます。また、家庭医の育成の一環として、森町病院、菊川病院と連携して神経内科の研修を行っています。



(7) 中東遠総合医療センター神経内科

研修指導医 若井正一（日本神経学会専門医、指導医）

当院は、平成 25 年 5 月に、掛川市立病院と袋井市民病院が統合されて新病院として開院しました。神経疾患全般にわたる診療を行うとともに、睡眠医療の専門医、専門技師が常勤しており、幅広い睡眠疾患（ナルコレプシーなど SAS 以外の睡眠疾患も含めて）を診療しています。また、認知症疾患医療センターの指定を国から受けており、静岡県西部における認知症診療の中核施設となっています。PET-CT、3T-MRI による最先端の認知症診断を行っています。



8 研修期間

専門医試験受験までの初期研修後の原則 4 年間、その後のより専門的な研修は浜松医科大学をはじめ県内外の病院、施設でも行うことは可能です。

9 プログラム参加の要件

初期研修を終了していること。日本内科学会、日本神経学会に入会すること。日本神経学会専門医の取得を目指すこと。

10 処遇

原則として、各病院の常勤医として採用します。

11 プログラム修了後の進路

プログラム参加病院への勤務の他、大学院への進学、他大学または施設での臨床あるいは研究に従事できるよう、各人の要望にできるだけお応えします。

12 プログラム運営委員会

宮嶋裕明 浜松医科大学内科学第一、附属病院神経内科
内山剛 聖隷浜松病院神経内科
坂本政信 浜松医療センター神経内科
高橋良知 JA 静岡厚生連遠州病院神経内科
石川邦子 国立病院機構天竜病院神経内科
藤本正也 磐田市立総合病院神経内科
若井正一 中東遠総合医療センター神経内科
事務局 浜松医科大学第一内科 <miyajima@hama-med.ac.jp>
<http://www2.hama-med.ac.jp/w1b/med1/neurology.html>

13 その他

浜松医科大学附属病院、および日本神経学会認定教育病院において卒後 6 年の研修を終えて、日本神経学会専門医を昨年までに 32 名が取得している。合格率は 100%である。

また、神経生化学（東京大学）、神経病理学（新潟大学）、神経放射線学（東京女子医科大学）、神経生理学（京都大学）、神経遺伝学（順天堂大学）での研修実績がある。